

[illegible]

◆水明インターネット句会◆																				令和七年十二月																			
21	子を首に巻いて枯野の父となる	22	もの持たず余白深まる年の暮	23	春待つや孫の高砂父になる	24	参道の樹相あらはに枯木立	25	大津絵の鬼も出払ふ師走かな	26	顔寄せて声を聞きたし冬堇	27	家々の呼吸を止めし雪の朝	28	温泉にヘルパー二人小晦日	29	巨星墜つ空はスカスカ十二月	30	待合にポインセチアと猫駅長	31	マンションの灯の揃ひたる歳の暮	32	凧の研ぎ澄ましたる織月よ	33	美しき数式生まれ冬銀河	34	幸せの滲む愚痴聞く年忘れ	35	散り切らぬ公孫樹落葉や音うすく	36	襞々に宿るひととせ山眠る	37	子ら寝入り静謐やぶる除夜の鐘	38	極月のリーダー照射国を刺す	39	路地裏の隠れ家カフェや冬灯	40	透けてゆく質疑日本のふゆ日差し

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	◆水明インターネット句会◆	令和七年十二月
冬雲雀風の死角へ鳴きにゆく	炬燵より返事のあれど待たされり	野辺山のパラボラ不動寒昂	児を看ての髪の湿りに湯ざめかな	駅前の列なす傘に細雪	革ジャンを脱ぎ装着す抱っこ紐	艶やかに紅き実七つ冬隣	新婚や四畳半間の置炬燵	新酒やぐい飲みひとつ椅子むつつ	雑炊やまたひと回り千支巡る	落ちぬよう春へ抱きつく枯葉かな	酒酌みし窓の外には冬銀河	ハタハタの身ほろとほぐれ酒すすむ	首手首足首射抜くからつ風	手のひらを合わせ手袋仕舞いけり	新酒垂れ五感の機微や櫂伝ふ	古の乳香纏ふ聖夜かな	夕映えはステンドグラス冬夕焼け	顔見世や胡坐啖呵の緋縮緬	柿の実のずっしり重く枝垂るる枝		

◆水明インターネット句会◆																				令和七年十二月
80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	
そぞろ寒ハローワークの帰り道	帰り花ひとつ老い木に来てとまる	かくれんぼ鬼をみてゐる冬薔薇	去る君の靴音残る冬の月	初時雨街へ迷子になりに行く	数へ日の十度は覗く納戸かな	冬帝の統べる静寂や銀世界	凍空や駅のホームのラーメン屋	ほつとかれ不機嫌な猫年用意	バビロンの塔崩れゆく落葉期	初氷ひかり確かに風の紋	お湯かけて福呼ぶ七福詣でかな	枯蝟螂懺悔の祈りも無かりけり	冬晴れや槌音高く廃屋跡	凧や会わなきやよかった同窓会	夜回の夫待つ妻の手編み棒	メモ一つ消し一つ足す十二月	さわさわと竹の葉ずれよ小春の日	波の花舞ふ越前の荒磯（ありそ）海	くさめしておでん屋台の無礼講	

◆水明インターネット句会◆																				令和七年十二月
100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	
裸木の隙間に見えし千切れ雲	緑の本一番上にある師走	年の瀬の膨らむスクランブル交差点	山茶花や想いを馳せる来し方を	冬の夜や赤きテントの町中華	まったりと日だまりぬくし冬の朝	闇の世の一陽来復明けたり	何事もなく夕暮れて冬至粥	裸木の灯りの化粧にほひ観に	のりたまのふくふく香る冬休み	YouTube またアヴェマリア師走かな	男には男の辛さ空つ風	数え日や窓拭く爺の力こぶ	にぎり川きみが育った冬の町	数え日や棺の友のしたり顔	極月もモーゼの苦難恨む人	更科の蕎麦を食して大晦日	冬帽子みちのくの日の有難き	年用意表札の文字なぞりつつ	のうのと妻の実家の置炬燵	

(6)

[illegible]